

伊豆半島ジオパークユネスコ世界再認定現地調査報告（デイリーレポート）

当日の現地調査の様子をお伝えします。

7月5日

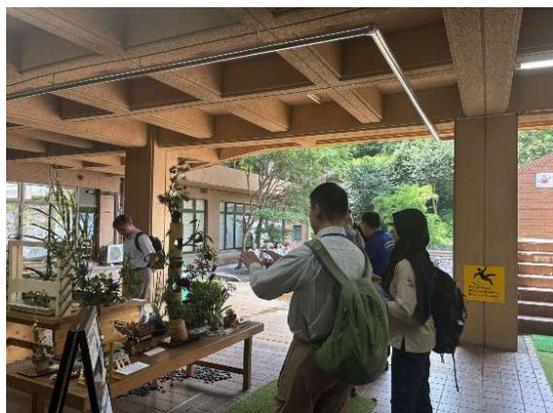
◆三島駅北口（三島市）

辻研究員、佐々木研究員が東京よりアattendし、調査員は三島駅北口に到着しました。最初に三島駅北口の案内板前にて遠藤研究員から伊豆半島の概要等の説明を受けました。調査員は看板の写真を撮るなど到着直後から調査が始まっている様子でした。



◆ジオリア見学（伊豆市）

昼食後ジオリアに到着した調査員は、加藤健司ジオパークガイドから伊豆半島ジオパークミュージアム「ジオリア」の運営や展示についての案内を受けました。調査員は様々な展示に興味を持ち、加藤ジオパークガイドや遠藤研究員へ質問する姿が見られました。



◆ジオリアプレゼン①（研究員）

美しい伊豆創造センターの研究員3名よりそれぞれ、伊豆半島の地質的な概要、伊豆半島ジオパークの管理体制、指摘事項への対応についての説明を行いました。

調査員からは、ジオパークの範囲設定や、デジタルマップについての質問がありました。



7月6日

◆湯ヶ島 湯道（伊豆市）

現地視察1日目の最初は、前回の指摘事項を受け天城湯ヶ島に新設されたテーマトレイル「文学の路」を鈴木まき子ジオパークガイドの案内のもと視察しました。鈴木ジオパークガイドの案内に終始うなづく様子も見えました。調査員からは「この道の利用者はどのくらいいるのか」などいくつかの質問が出ました。



◆天城山ブナ林（河津町）

引き続き鈴木ジオパークガイドの案内で天城山のブナ林を訪れました。ここでは、ブナ林までの道中でサルナシや馬酔木（あせび）といった天城山の植生について話が合ったほか、ブナ林で鹿の食害などについて説明が行われました。調査員は天城山の豊かな自然にたくさんの写真を撮るなど非常になごやかに視察が進みました。



◆こがねすと（西伊豆町）

昼食と合わせて西伊豆のビジターセンターである「こがねすと」を訪れました。昼食のメニューは地元の特産品である塩鯉とわさびを使った塩鯉丼で、それぞれ生産者からの話を聞き、実際に鯉節の削り体験を行いました。地元産品の振興や食文化の継承は世界ジオパークにおいて大変重要視されています。調査員は体験を通じ、西伊豆の特産品の香りを感じながら、美味しそうにほおばっていました。



◆堂ヶ島公園（西伊豆町）

堂ヶ島公園では、伊豆半島ジオパークの地質学的価値の高いサイトの一つである堂ヶ島の地層を遊覧船で眺めながらジオクルーズを体験しました。仲田慶枝ジオパークガイドの案内のもと、船上から見える海底土石流など海底火山の痕跡を説明すると、調査員はしきりにシャッターを押していました。船がクライマックスの天窗洞に入ると調査員は興奮した様子で周囲を見渡していました。



◆イズシカ問屋（伊豆市）

午前中の天城山での鹿の食害の話からつながり、伊豆市が管理している食肉加工場のイズシカ問屋を訪れました。ここでは、伊豆市職員から施設の概要説明を受けた調査員は、施設が出来てからの鳥獣管理の生態系への効果などについて質問があるなど高い関心が寄せられました。

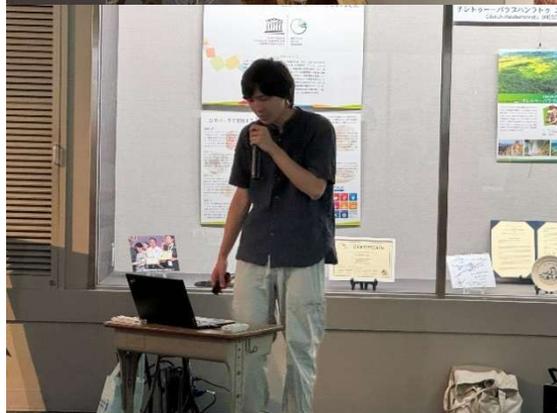
◆ジオリアプレゼン②（静岡大学・細野高原・沼津商業高校）（伊豆市）

1日目のジオリアでのプレゼンでは、3団体より主に伊豆半島ジオパークとの教育分野での連携等についてプレゼンが行われました。

静岡大学からは山本隆太准教授・内山智尋准教授より静岡大学とジオパークの教育活動やジオパークと福祉の関係性（ジオ×福連携）について発表がありました。

東伊豆町の新井翔ジオパークガイドからは、細野高原の山焼きを題材として、地域コミュニティにおけるジオサイトの価値や、教育的利活用について、沼津商業高等学校からは観光コミュニケーションコースの山本壮流教諭からこれまでどのように伊豆半島ジオパークを授業で活用してきたかについて説明をし、実際に生徒も授業で得た経験について話をしました。

また、沼津商業高等学校と新井ジオパークガイドが伊豆半島ジオパークの主催事業をきっかけに連携して事業が産まれたことを例に、地域の若者を結び付け、地域社会の担い手として育てていくという伊豆半島ジオパークの重視している教育の在り方が紹介されました。



7月7日

◆白濱神社（下田市）

白濱神社は、地質遺産、自然遺産および文化遺産の繋がりが顕著なサイトの一つとして、青木真由里ジオパークガイドの案内を受けました。調査員は境内を歩き古代の火山活動が信仰の成立に果たした役割について説明を受けました。また、砂浜を通り、海岸にある鳥居まで視察しました。調査員は鳥居の対岸にある岩石や中国南部や東南アジアにも生息しているアオギリがなぜ伊豆半島にも分布しているのか興味を持ち、青木ジオパークガイドや佐々木研究員に積極的に質問をしていました。



◆熱川温泉（東伊豆町）



熱川温泉は新設された文化サイトとして紹介されました。現地では東伊豆町の職員から新設予定の看板について説明があったほか、木村詞子ジオパークガイドと熱川温泉旅館組合の太田宗志さんから熱川の重要な無形文化遺産である湯守文化について案内を受けました。調査員は熱川温泉をサイトとして登録するに至った動機や登録後の影響について質問をし、市民主導でのサイト登録についての経緯を確認していました。

◆さくらの里（伊東市）

昼食前にさくらの里に寄り、調査員は仲田慶枝ジオパークガイドから大室山についての説明を受けました。短時間ではあったものの、調査員は伊豆半島の見どころの一つである大室山の姿に感動していました。



7月8日

◆ジオリアプレゼン③(静岡ガス(株)・ながいずみ観光交流協会(長泉ビジターセンター))

調査3日目となるこの日は朝からプレゼンが行われました。

静岡ガス株式会社の石川麻友子さんからは、パートナーシップ活動として共同で行っているイベント「ジオぱく」について説明があり、ながいずみ観光交流協会からは牛島康祐事務局長(ジオパークガイドとしても活動)が市民活動等について話をしました。

調査員はエネルギー会社とジオパークの連携に関心を持つとともに、伊豆半島の玄関口の一つとして機能している長泉の市民主体の活動について興味深そうに話を聞いていました。



◆狩野川放水路(伊豆の国市)

狩野川の水害対策の一環として狩野川放水路を仲田慶枝ジオパークガイドが案内をしました。狩野川台風などこれまでの大きな水害の影響で放水路の建設がなされたことなどの経緯が説明され、調査員は災害の歴史を辿るような案内に感動しながら、ジオパーク活動にこの場所がどのように活用されているのかについて質問するなど現地で活発な議論が行われました。



◆柿田川公園(清水町)

「ジオサイトと繋がる生物多様性に関する情報をより多く提供すること」という指摘事項の対応箇所として柿田川公園を訪れました。看板の盤面改修を行った、湧き間のある第二展望台で加賀美剛ジオパークガイドが看板を使いながら案内を行いました。調査員からは市民団体主体による保全活動等について質問がありました。



◆丹那断層公園（函南町）



伊豆半島ジオパークとしての地質学的価値の非常に高い、見どころのサイトの一つとして丹那断層公園を堤麻理ジオパークガイドが案内し、函南町の職員からはサイトの管理や教育や観光への活用などについて話をしました。調査員は、北伊豆地震により生じた断層についての説明に終始うなずく様子を見せるなど、地質学者ならではの関心の高さが感じられるリアクションがありました。

◆伊豆山神社（熱海市）

指摘事項対応である、「地質遺産・文化遺産の繋がり発信強化」及び新規に設置した熱海市のテーマトレイル「信仰の路」について、國學院大学の深澤教授を招き、説明を行いました。調査員は深澤教授の話に聞き入っている様子でした。また、「この地域に信仰が生まれたのは、風水のような東洋哲学の影響がみられるのか」といった質問もあり、伊豆半島の信仰についての理解を深めていました。



7月9日

◆講評・意見交換（ジオリア）

ジオリアの円卓テーブルを囲みながら、調査員との今回の現地調査の総括として意見交換を行いました。美しい伊豆創造センターの菊地会長（伊豆市長）、山下ジオパーク担当理事（伊豆の国市長）も参加し、今後の伊豆半島ジオパークの方向性について議論を交わしました。調査員からは「防災・気候変動対応への充実」や「国際交流の活性化」について指摘がありました。

調査員は今後、今回の現地調査を詳細にまとめ、世界再認定の審議を行うカウンシルへと報告書を提出することとなります。



◆記者会見（囲み取材）（ジオリア）

現地調査を終えた調査員はジオリアで記者会見（囲み取材）を行いました。記者から「指摘事項への対応はどうだったか」と聞かれた調査員は「非常によく対応できていた。その他にも前回審査以降に達成できたことがたくさん見られた」とコメントしたほか、「すべてのジオパークに必ず改善の余地がある、伊豆半島ジオパークに関してもより良くなるよう見解や提言を出していく」と話しました。

続いて菊地会長と山下ジオパーク担当理事が取材に応じました。再認定の手ごたえについて菊地会長は「再認定に向けてしっかりとしたアピールができたと感じている」と話し、山下ジオパーク担当理事は今後のジオパークとしての活動について「ジオパークには完成がない、毎回の審査を通じ、常に向上していく必要がある」と述べました。

